

梶山女学園大家政

小林 重喜

山内 和子

○都築 澄子

1. 肌着につく皮脂よごれの量は、年齢、性別などで異なるのではないかと考えられる。

我々は、肌着につく皮脂よごれ量の実態を明らかにする目的で、先に女子大学生と男女中学生の肌着につく皮脂よごれ量を測定し、第20回総会において報告した。

今回は、ひきつづき男子高校生の肌着につく皮脂よごれ量を測定したので、その結果について報告する。

2. 被験者は、名古屋市立菊里高校男子生徒26名である。試料は8月、3月を除き毎月ごとに1回、合計10回採取した。

試料の採取方法は、 10×20 cmの布を肌着の背の部分に縫いつけ、24時間着用する。布をとりはずし、付着した皮脂よごれを、マイクロソックスレー装置を用いてベンゼンで抽出した。

皮脂よごれ量の測定には、単分子膜レンズ法を用いた。結果は、ステアリン酸当量であらわした。

3. 今回の男子高校生の場合、24時間の間に肌着につく皮脂よごれの量は、 $5.9 \sim 77.8 \text{ mg}/100 \text{ cm}^2$ の間に分布し、 $15 \sim 16 \text{ mg}/100 \text{ cm}^2$ にピークをもっている。

男子高校生の皮脂よごれ量の分布の傾向は、女子大学生の場合とほぼ同様である。しかし、男女中学生と比べると、分布の幅も、ピークの値も、ほぼ2倍の大きさに相当する。

皮脂よごれ量と体格（肥満型、やせ型）との間に、相関関係は認めにくい。